My Town Topics

加護坊山の自然が美味しさを一層引き立ててくれました

ジャンボ肉まつり in 田尻
加護坊山に舌鼓がこだまする（田尻）

8月27日、19回目を迎えた「ジャンボ肉まつり in 田尻」が、加護坊山山頂東側キャンプ場で行われ、多くの家族や仲間連れでにぎわいました。

この日はとても暑い一日でしたが、汗をかきながら食べる、田尻産の牛肉や豚肉、野菜の味は、何にもまして格別だったようで、参加した皆さんの舌鼓が聞こえてくるようでした。また、特設ステージでは、田尻出身の歌手や地元の皆さんの舞踊、ちびっ子チアリーダーなどが、華やかさを添えていました。

ヒシには水質浄化作用があり、栄養価も高く、漢方薬としても用いられることから、今後の展開が大いに期待されています。

白く可憐なヒシの花

シナイモツゴ郷の会・品井沼ヒシを育てる会
品井沼ヒシを復活！特産品に（鹿島台）

鹿島台地域のNPO法人「シナイモツゴ郷の会」と「品井沼ヒシを育てる会」の皆さんが、「ヒシ」の栽培に成功しました。もともと旧品井沼にはヒシが自生していて、ヒシの収穫が風物詩でした。実はクリに似ていて、当時は、お茶うけやヒシご飯として食べられてきました。その品井沼のヒシを復活させ、地域の特産品にしようと、会員の休耕田を活用し、3年前から栽培に取り組み始め、この9月、見事に実ったヒシの実の収穫を行いました。今後は、休耕田の活用策として本格的な栽培を目指していくそうです。

9月9日・10日の2日間、第43回政宗公まつりが開催されました。9日の宵まつりでは、華やかな踊りとみこしのパレードが、また、10日の本まつりでは、勇壮な伊達武者行列、花火大会などが行われ、両日とも、沿道を埋め尽くした観客の皆さんを魅了しました。

岩出山では、伊達武者行列の時は、雨が降らない、止むといったジンクスがあります。今回も、本まつり終了後に、バケツをひっくり返したような豪雨が降り、関係者をびっくりさせました。来年は2日間とも晴れるといいですね。

第34回政宗公まつり
雨も止ませる勇壮なまつり（岩出山）

勇壮な伊達武者行列で、まつりはクライマックスに

9月1日から3日の3日間、第52回全国こけし祭りが開催され、展示・販売会場の鳴子小学校体育館には、こけし愛好家の皆さんが押し寄せました。

全国のこけし工人の作品が一堂に展示・販売されるとあって、中には、お目当てのこけしを求めて、4日前から会場前に並んだという熱烈なこけしファンもいました。

期間中は、踊りやみこしのフェスティバルパレード、こけし囃子コンテストが行われたほか、第16回鳴子漆器展も行われ、多くの人でにぎわいました。

第52回全国こけしまつり
お目当てのこけしを求めて全国から（鳴子温泉）

お気に入りの一本を求めて

地球温暖化はほくらが止める！

知ろう考えよう地域環境と地球問題「環境フェア」
地球温暖化は私たち一人ひとり（古川）

9月9日、環境への取り組みを一層推進し、循環型社会の実現について理解を深めてもらう目的で、市民会館を会場に、知ろう考えよう地域環境と地球問題「環境フェア」が開催されました。「地球温暖化防止に向けて」と題した宮城県地球温暖化防止活動推進員 矢滝幹子さんの講演や、標語・ポスター・川柳コンクールの作品展示のほか、劇団公演「環境戦隊ステレンジャー」ショーも行われました。地球温暖化を止めるのは、私たち一人ひとりであることを改めて気付かせてくれました。ありがとうステレンジャー！

今度はご家庭でチャレンジですね

女性講座「パンづくり」
簡単なのにすごく美味しい！（三本木）

9月13日と20日に開催された第4回女性講座では、19人の女性が参加して「パンづくり」に挑戦しました。

地域内でパン工房「青い虹」を営む井上純子さん（三本木北町）を講師に迎え、国産の小麦や天然酵母などでこねあげた一つのパン生地から、中華パンとイタリアのフォカッチャ、ピザの3種類を作り上げました。

初めてのパンづくりにチャレンジした皆さんは、パン生地のデリケートさや、できたての美味しさに感動し、家でもチャレンジしたいと話していました。

美しく咲き誇るコスモスに抱かれ、ゆったりと時の流れを感じる

まつやまコスモスまつり 2006
20万本のコスモスと幻の人車（松山）

9月9日から御本丸公園内のコスモス園が開園し、16日・17日の2日間、「2006まつやまコスモス祭り」が開催され、大勢のお客さんで賑わいました。

700㎡の園内には13種20万本の色とりどりのコスモスが咲き誇り、訪れた人たちは、散策や記念撮影をして楽しんでいました。この2日間は、カラオケ大会や舞踊、歌謡ショーなどが行われたほか、大正11年から昭和4年までの6年間、旧松山町内を往来していた幻の「人車」が、お客さんを乗せ園内を走りました。

人車は、明治41年に開業した東北本線松山駅が、町場から2.5キロメートルも離れていて、人家もなく、駅までの往復に不便であったことから考え出されたもので、今で言うバスの役割を果たしていました。定員は8人で、人が一生懸命手で押してレールの上を走らせます。当時は人車の会社があり、4台が稼動していて、車を押す仕事に従事する人は厚遇されたそうです。現在は、東京の交通博物館と松山ふるさと歴史館に1台ずつ保存されているだけになり、まさしく幻となりました。

人車に乗った皆さんは、揺れる車窓から園内一面に咲きそろったコスモスを、ゆったり眺めていました。